



● アレルギー性鼻炎の定義と現状

- ・ アレルギー性鼻炎の定義：鼻粘膜のI型（即時型）アレルギー疾患で、発作性反復性のくしゃみ、水性鼻漏、鼻閉を3主徴とする。
- ・ アレルギー性鼻炎の有病率：39.4%
- ・ 通年性アレルギー：23.4%
- ・ スギ花粉症：26.5%
- ・ スギ花粉以外：15.4%

● アレルギー性鼻炎の治療法

- ・ 抗原の回避；マスクやメガネによる花粉暴露の軽減など。
→完全に防ぐことは無理
- ・ 薬物療法；ヒスタミン受容体拮抗剤、ロイコトリエン受容体拮抗薬など。
→対症療法
- ・ 手術療法；レーザーでの鼻粘膜焼灼など。
→根治的治療ではない
- ・ アレルギー免疫療法；ごく少量の抗原を長期間投与し免疫反応を弱める。
→原因から治療する唯一の治療



● アレルゲン免疫療法の歴史

- ・ 1970年代より大学病院や耳鼻科で皮下注射による治療が行われてきた。
- ・ 頻度は少ないが、全身性の副作用があり皮下注射による免疫療法は減少傾向にあった。
- ・ 1986年舌下免疫療法が開始され、72%の患者に症状改善が認められた。
- ・ 本邦では2014年10月より、スギ花粉症の舌下免疫療法が可能となった。

● スギ花粉症に対する舌下免疫療法の適応と禁忌（平成29年改訂）

<対象>

スギ花粉症患者

<禁忌（本治療を受けてはならない人）>

重症の気管支喘息患者

<相対的禁忌（本治療を受けない方がよい人）>

本剤によるアレルギーの既往

悪性腫瘍、自己免疫疾患、免疫複合体疾患、免疫不全症など

未就学児童

<慎重投与>

気管支喘息

小学生以上の児童（保護者のサポートが必要）

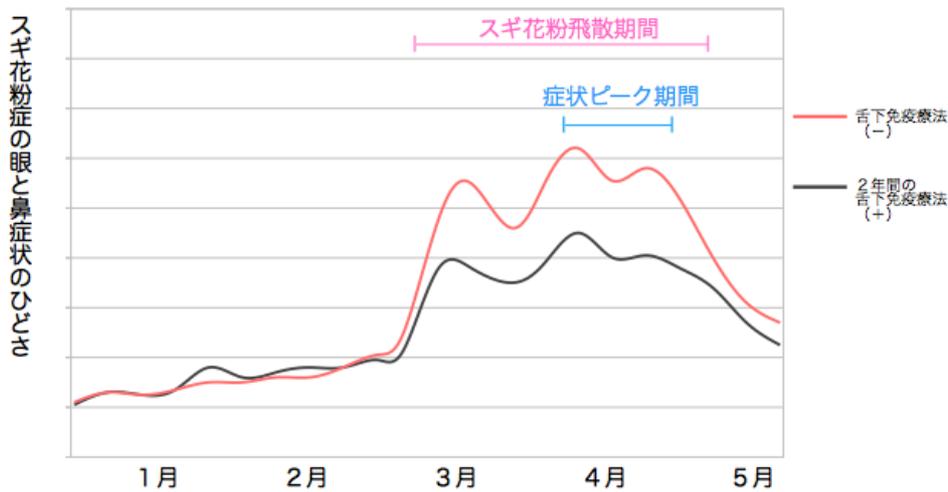
スギ花粉症の舌下免疫療法について

<http://www.okahara-c.com/>

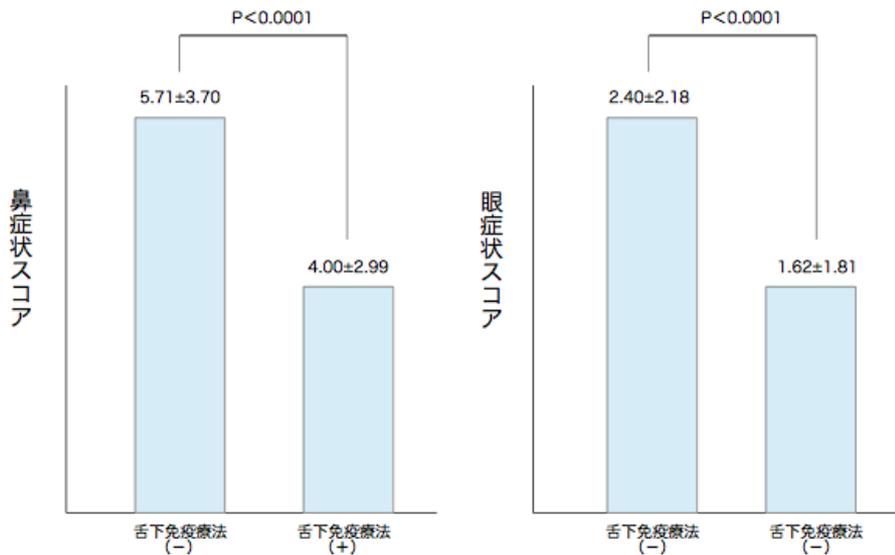
③

● 舌下免疫療法の効果

<スギ花粉症舌下免疫療法の効果①>



スギ花粉症の舌下免疫療法を2年間受けた群はうけなかった群にくらべ眼と鼻症状を改善する効果が認められた。



スギ花粉症の舌下免疫療法を2年間受けることにより、ピーク期の眼と鼻症状は有意に改善しました。



● 副作用について

- ・ 主な副作用は口内炎（1.9%）、舌下腫脹（1.9%）、咽 喉頭掻痒感（1.9%）、口腔内腫脹（1.5%）、耳掻痒感（1.1%）、頭痛（1.1%）であった。
- ・ 重大な副作用として、アナフィラキシーショックが現れる可能性がある（1億回に1回）。
血圧低下、呼吸困難、顔面浮腫、咽頭浮腫、じんましん、喘息などの異常が認められたときは直ちにかかりつけの医療機関に連絡するか、指定された救急病院を受診しなければならない。

● スギ花粉症の舌下免疫療法5つのポイント

- 1、原因から治す治療法である。
- 2、自分で毎日、薬を舌下しなければならない。
- 3、長くかかる（3～5年）。
- 4、症状は軽くなるが、ゼロにはならない。
- 5、まれだが副作用がでることもある。

スギ花粉症に対する舌下免疫療法をはじめます。

治療導入：7月1日～12月4日まで

要予約